

	R7年度実績	次年度以降実施予定
<p>実証内容</p>	<p>【実施市町・集落数】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施市町数：8市町 ・実施集落数：17集落等 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的な対策体制の構築 センサーカメラの映像による加害獣種の判別、捕獲場所の同定、捕獲檻の餌付け状況の把握およびデータの地図化により、集落住民主体の獣害対策が進み、被害は減少傾向にある。一部の集落においては「被害ゼロ」を達成（R6：8.8万円→R7：0円）するなどの成果も確認。 ・情報共有による連携強化 SNS（LINE等）を活用し、取組状況や被害発生情報を共有することで、関係者間の連携が強化され、初動対応の迅速化に寄与している。 ・事業実施集落単位での検討（令和8年1月～3月） 今年度の取組状況を集落単位で総括し、課題を整理したうえで、来年度に実施する取組内容を検討。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣集落との境界部分の獣害対策強化に向けた合意形成 ・人的作業（柵補修、捕獲等）における担い手不足 ・地元猟師の高齢化に伴い、協力体制の維持が困難 <div data-bbox="350 911 1067 1106" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・捕獲場所及び捕獲数 ・防護柵の種類及び位置 ・被害発生個所及び被害の程度 ・加害獣の出没状況 <p style="text-align: right;">等を地図上で可視化</p> </div> <div data-bbox="1100 815 1493 1079" style="text-align: center; margin-top: 10px;"> </div> <p style="text-align: center;">図 R7被害対策状況地図</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GIS等を活用し、野生動物の侵入箇所、捕獲罠及び防護柵の設置位置などを記録した被害対策状況地図を事業実施前後で集落ごとに作成・共有し、その情報を次年度の取組に反映していく。 ・既存機器の稼働状況を踏まえながら、モデル地区への機器追加を進め、防除体制の強化を図る。
<p>導入機器 ※交付金活用外の機器を含む</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・センサーカメラ ・ソーラーハンティングカメラ TC02（VOOPEAK） ・自動捕獲機器 アニマルセンサー（アイエスイー） ・兵庫県獣害対策GIS 	<ul style="list-style-type: none"> ・センサーカメラ 28基 ・センサーカメラ 3基 ・自動捕獲機器 1基 ・電気柵監視システム 1式 ・検電器 3基